

りはる - Re 春 -



訪問リハビリ テーションの ご案内

当院では、退院後の患者さんがより自立した日常生活を過ごせるよう、経験豊かなスタッフによる訪問リハビリテーションを提供しております。確かな技術ときめ細かなサポートで多くの方にご好評をいただいております。当院に入院歴のない患者さんもお利用いただけますので、ぜひご相談ください。

【対象範囲】 東淀川区・淀川区内で、病院から半径3km圏内

【提供日時】 月～土 9:00～17:00（日・年末年始を除く）

【お問合せ先】 淀川平成病院 地域連携室

病院食で《日本全国味めぐり》



調理師お手製の山口ういろう
スイーツ作りも腕の見せどころ

淀川平成病院では、毎週1回【郷土料理】を提供しています。誰もが知っている有名な郷土料理もあれば、名前からでは想像もつかないような珍しいメニューも登場するなど、毎日の食事を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。

この日は山口県の郷土料理でした。『ういろう』という名古屋の郷土菓子というイメージがありますが、名古屋のものは米粉で作られたモチリタイプ、山口はわらび粉を使ったプルプルタイプという食感の違いがあります。

京都や小田原も『ういろう』の名産地として知られていますが、わらび粉を使っているのは山口だけ。他にはない柔らかい口当たりが魅力のお菓子を楽しみました。

2024年 2月～4月当院実績

在宅復帰率	重症度割合	重症患者改善割合	アウトカム評価
89.1%	51.6%	64.1%	61.5

アウトカム評価

入院中に効果的なりハビリテーションが行えたかどうか、特定の指数でアウトカムを評価しています。医療保険の基準では、**40以上**であることが求められています。**短い入院期間で生活機能が向上するほど、高い**指数が出るようになっていきます

春の防災訓練

新年度を迎え、新たに加わったメンバーと共に、春の防災訓練を実施しました。

今回の訓練では、**非常時に必要な情報を素早く収集できるか？それを見える化できるか？**をテーマに行いました。

大規模災害と呼ばれる地震や水害では、ただ患者様を避難させるだけでなく、患者様の安全確保を確立し、それを一定期間維持し続けることが求められます。そのためには、**どんなリソースがどれだけ残されているのかを素早く把握する《情報整理のテクニック》**を身につけることが大切です。

そのため、通常の訓練内容に加えて、ホワイトボードを使用した情報の収集や整理、共有にも取り組みました。《緊急時に確認・報告すべきポイント》をチェックしながら患者様役を誘導するとともに、収集した情報を見える化させることで、各自が無駄なく安全確保と状況把握を完了させることができました。



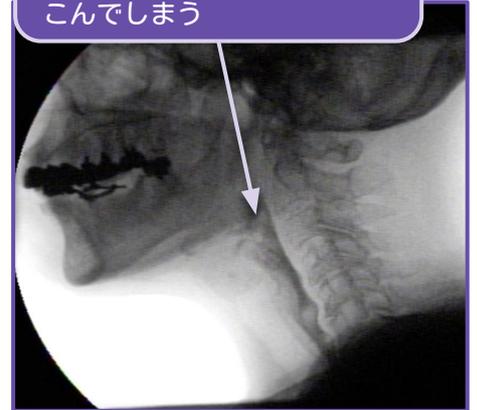
いつからでも 変われる！

トレーニングを始めることに遅すぎることはありません。
今回は、チームアプローチで《食べる機能》を回復させ、身体全体の機能回復につながった90歳代の患者さんの事例をご紹介します。

飲み物や咀嚼された食べ物が、喉から食道、胃へと送られていく反射運動のことを【嚥下（飲み込み）】と呼びます。嚥下障害によりこの機能がうまく働かなくなると、誤嚥（気管に入ること）が起こり、高齢者にとってリスクの高い（誤嚥性）肺炎を引き起こす場合があります。当院では週2回嚥下造影検査（通称VF）を行い、患者様の嚥下障害の評価に役立てています。

誤嚥性肺炎後のリハビリテーション治療のために当院へ入院された90歳代の患者様。VF画像から、肺炎で寝たきりの時間が長くなり飲み込む力が落ちたと評価して、早速嚥下訓練に取り組みました。

嚥下障害により気道防御反射が低下し、飲み込みやすいとろみのある水でも気道へ入りこんでしまう

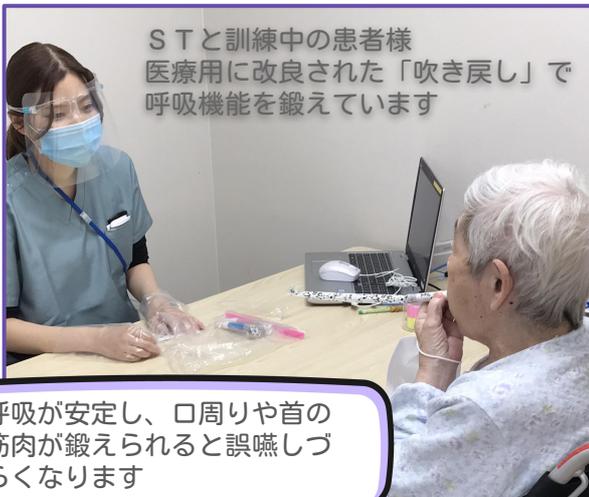


90歳代の患者様のVF画像

患者様は当初、起きることを拒否されることもあり、食事も全介助、食欲も乏しい状態でした。

これに対し、理学療法士や作業療法士が患者様をベッドから起こして、運動や生活機能の強化に取り組みました。また、少しでも食事量を増やせるよう、管理栄養士や歯科衛生士も加わり、日常的な口腔内のケアや食事内容・食形態の改善を図りました。看護師は身体管理や精神的サポートを行うと共に、患者さん・ご家族・多職種間での橋渡し役を担いました。言語聴覚士は、食べるために必要な舌や頬、口唇や喉、呼吸の筋力を高めるトレーニングを行いました。多職種で患者様と関わることにより、ご本人も次第に元気を取り戻され、意欲的に訓練を行って下さるようになりました。

STと訓練中の患者様
医療用に改良された「吹き戻し」で
呼吸機能を鍛えています



呼吸が安定し、口周りや首の
筋肉が鍛えられると誤嚥しづ
らくなります

このようなトレーニングを続けた結果、二度目の検査では、とろみのない普通の水をストローであれば問題なく飲めるなど、嚥下機能が回復されました。吹き戻しを使った訓練や発声訓練でも、90歳代とは思えないほど安定した呼吸が確認でき、これまでの訓練の成果を感じられました。90歳代であっても、よく食べ、よく動き、しっかり訓練をすると、身体機能の改善が見込めると学ばせていただいた方でした。

ストローを使って「ウ」の発音で
「ふるさと」を歌い、声帯筋を鍛え
ます。声量も十分でメロディも完璧！



机の縁を持ち、前傾姿勢になって短く
強く「あ、あ、あ」と発声を繰り返す
ことで声帯の閉鎖を訓練しています



《看護の質を高める》

多重課題への取り組み

卒後2年目レベルの看護師を対象に、多重課題・多重業務への対処法を学ぶシミュレーション研修を行いました。

病棟で勤務する看護師は複数の患者を同時に受け持つため、いくつも重なる課題《多重課題》について、業務の優先順位や時間配分等を考えながら対処することが求められます。

これを解決するためには、看護技術や知識を臨床の場の特徴に反映したり、適切な患者・家族とのコミュニケーションを図ったりするといった《看護実践力》が必要とされています。

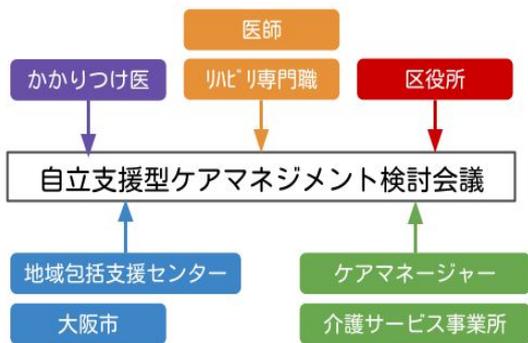
今回の研修では、「ある患者様の輸液ポンプのアラームが鳴っている」時に、「転倒リスクのある別の患者様が端坐位になって立ち上がろうとしている」など、複数患者間での多重課題発生を体験し、優先順位付けの難しさや適切な応援要請の仕方、応援者への依頼の仕方などを学びました。

患者様の高齢化や提供する医療の高度化に伴い、看護の業務量はますます増加し、内容も複雑化しています。患者様が安全に、かつ看護師が負担なく効率的に業務を遂行できるよう、今後もこのような実践研修を通じて看護のスキルアップを図っていきます。



《地域とともに》

自立支援型ケアマネジメント検討会議への参加



各市町村では、生活機能の維持や向上の期待できる要介護認定者（主に高齢者）を対象に、医師やリハビリテーション専門職等を助言者に招いて、自立支援・介護予防の観点から個別のケアマネジメント（ケアプラン作成等）について検討を行う《自立支援型ケアマネジメント検討会議》が行われており、当院のリハビリテーションスタッフも、この会議に外部助言者として参加しています。

4月26日に東淀川区中部地域包括支援センターで行われた会議では、対象のケアマネージャーやサービススタッフの方々に対して、自立支援・重度化防止に向けたケアプラン作成についての助言や、地域資源の提案をいたしました。

誰もが「最期はやっぱり住み慣れた処」を実現できるよう、引き続き取り組んでまいります。

外来
受付時間

午前 8:30～11:30 (月～土)
午後 13:30～16:30 (月～金)

休診日

土曜PM・日曜祝日
年末年始